

令和7年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程学習指導	自立と社会参加をめざし、小中高一貫した、系統性のある教育課程の編成と、児童生徒の身につけた力を明確にした授業づくりを進める。	<p>①教科の身につけたい力一覧を参考に、学部間のつながり、系統性の意味について共通理解を図り、授業づくりを行う。また、児童・生徒が身につけた力は、個別教育計画やアセスメントシートに照らし客観的に評価していく。</p> <p>②学校生活全般を通し、また教科横断的に、児童・生徒ができるようになったことを、見える化し、示すことで、児童・生徒自ら実感し、主体的な学びにつながるような授業づくりを行う。</p>	<p>①教科ごと身につけたい力一覧を参考に、授業のねらい、身につけたい力を学習指導案に明記し、段階の見える化を図る。</p> <p>①授業後には教科担当者、学年会等で授業を振り返り、評価基準や、できた要件を指導者で共有し、具体的な根拠に基づく評価を行う。</p> <p>②キャリア・パスポートの掲示と評価、作業学習は作業日誌での振り返りを実施。分教室は目標達成シートの活用により、主体的な行動を促す。</p>	<p>①学習指導案に授業のねらい、身につけたい力を明記し、見える化を図ったか。</p> <p>①授業の振り返りでは、根拠に基づいた評価ができたか。</p> <p>②キャリア・パスポートの掲示及び評価、作業日誌、目標達成シートの活用が行えたか。</p>
2	児童生徒指導支援	児童・生徒の教育的ニーズに基づき、多角的な視点からアセスメントを行い、個に応じた力の育成を図るとともに、組織的、効果的な支援を行っている。	<p>①小中学部はアセスメントシートを活用し、効果的な支援につなげることができたかを検証する。校内外の関係者との連携により、多角的な児童・生徒支援を行う。</p> <p>②教材データや相談室内に設置した実物教材を活用し、教材研究、教材開発を進めている。</p>	<p>①小中学部はアセスメントシートを活用しながら、活用状況を専門職にフィードバックし、ブロック内専門職とも連携しながら、より使いやすいものにしていく。高等部はニーズに応じたアセスメントを行い、1年生には太田ステージを実施し、中学部のアセスメントシートを活用しながら生徒の実態把握を行う。</p> <p>①ブロック内専門職巡回時にミニ研修会を実施する等の機会を増やす。</p> <p>②学習指導案、授業の提示資料等をデータベース化する。また校内の共有教材を集め、課題別学習等で活用できるようにする。</p>	<p>①小中学部はアセスメントシートの活用が行えたか。また高等部は別の形での実態把握が行えたか。</p> <p>①ブロック内専門職巡回時にミニ研修会を実施できたか。</p> <p>②データベース化ができたか、また共有教材の活用ができたか。</p>
3	進路指導支援	児童生徒が地域社会で豊かに生きる力を育むために、鶴見のキャリア教育目標を踏まえ、ライフキャリア、ワークキャリア両面での系統的なキャリア教育の充実を図る。	①学部に合わせてキャリア教育、進路に関する情報を、進路学習会等を通して教員、保護者と共有することで、児童・生徒指導、支援につなげていく。	①職員向け、保護者向けに企業や福祉事業所の見学会を実施する。学校運営協議会主催の進路学習会を夏季休業中に実施し、教職員の研修へもつなげる。また、保護者対象進路学習会の内容を教職員とも共有できるよう工夫する。	①学校運営協議会主催の進路学習会を実施できたか。また保護者対象進路学習会の内容を職員間で共有できたか。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
4	地域等との協働	児童・生徒の学びの場をより地域に広げ、また地域への情報発信を行うことで、障害のある児童・生徒の理解を進める。地域と連携した教育活動を推進し、共生社会の実現を目指していく。	<p>①保護者や地域のニーズを把握する機会を増やし、より丁寧な情報提供を行う。センター的機能の一環として、校内の教材・教具を地域に紹介することで、地域の特別支援教育に関する理解の向上に努める。</p> <p>②学部間、学校間交流、地域との協働を継続し、児童・生徒の学びの場を地域に広げる。ボランティアの拡充を図り、地域と連携した教育活動を推進する。</p>	<p>①進路学習会等でのアンケートを通じて、参加者のニーズを把握し、情報提供の際の参考としていく。</p> <p>①校内の共有教材をホームページやXで紹介する。また学部を紹介するための共通教材ファイルを作成し、巡回相談時に活用する。</p> <p>②校内における学部内、学部間交流を引き続き行うと共に、高等部は外部機関と連携し、作業学習や実習等で、生徒が地域に出る機会を広げていく。分教室は引き続き、近隣の公園整備や清掃活動、地域の行事に参加し、地域交流、地域貢献を図っていく。</p> <p>②地域の回覧板や社協のボランティアセンターを通じてボランティアを募集する。校内のニーズを踏まえてボランティアの拡充を図る。</p>	<p>①地域や保護者のニーズを把握し、情報提供の参考にできたか。</p> <p>①共有教材等を地域へ発信、また巡回相談等で活用できたか。</p> <p>②校内における学部内、学部間交流を通し、児童・生徒間の関わりが広がられたか。</p> <p>②外部機関と連携することで、生徒が地域と関わりながら学びを行うことができたか。</p> <p>②ボランティアの拡充を図れたか。</p>
5	学校管理 学校運営	安全安心な学校づくりのため、良好な教育環境の整備と、危機管理体制の確立を図り、地域に信頼される学校づくりに取り組む。教員の教育力、専門性の向上、不祥事の防止を図ると共に、効率的な業務遂行と働き方改革を推進する。	<p>①避難訓練は想定や役割を変えながら実施し、実効性のあるものとする。また大規模災害時の動きについては、鶴見区と連携を始めており、本校の役割等を確認するとともに、地域の施設との連携も進めていく。</p> <p>②様々な働き方の教員が、自身のワークライフバランスを取りながら、効率的に業務が行えるよう、業務改善を進めていく。教員だけでなく、学校外の視点を取り入れ、改革を促進していく。</p>	<p>①学期ごとの全校避難訓練は、想定を変えて計画、実施、見直しを行う。加えてM訓練（未公開、未通知）を計画、実施する。</p> <p>①鶴見区と連携し、補足的避難場所としての具体的な役割の確認、物品の準備等を進める。</p> <p>②学校運営協議会の部会と連携し、外部からの視点を取り入れ、働き方改革を推進していく。</p>	<p>①全校避難訓練は実効的なものとなったか。</p> <p>①鶴見区との連携を図り、補足的避難場所としての具体的な役割を確認できたか。</p> <p>②外部の視点を働き方改革につなげることで、具体的な結果が現れたか。</p>